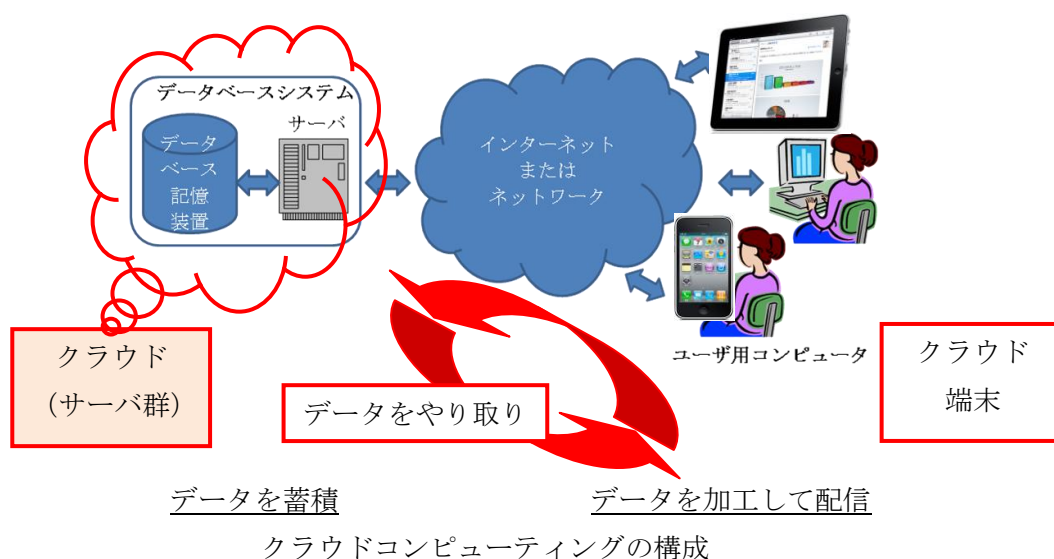


弊社の所有する特許及びその関連事業に関するご紹介

弊社は、WEBデータベースシステムと呼ばれるシステムに関する基本特許を平成14年5月に出願し、平成23年5月に取得致しました。

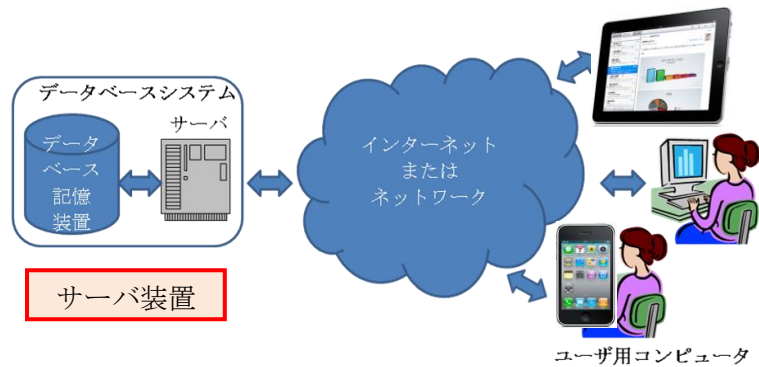
1. [クラウドとは]

近年、ソフトウェア（アプリ、アプリケーション）のデータを保存管理する機能、及びそのデータを処理したり加工する機能はサーバ群と呼ばれる、インターネット上の管理された複数のサーバ装置内のデータベースシステムで行われるようになって来ました。クラウド端末と呼ばれるスマートフォンやタブレットが現れ、これらの端末がインターネットを通じてサーバ群に接続し、データをやり取りすることでソフトウェアの実行を実現する構造ができあがってきました。これをクラウドコンピューティングと言います。現在ではクラウド端末やパソコンが接続されるこのようなサーバ群をクラウドと呼ぶようになって来ています。



2. [WEBデータベースシステムとは]

WEB即ちインターネット、イントラネット（企業内ネットワーク）、エクストラネット（企業間ネットワーク）等各種ネットワークにおいて、ユーザ用コンピュータ、又はスマートフォン、タブレット等の端末から接続してブラウザ（インターネット閲覧ソフト）で利用できるデータベースシステムをWEBデータベースシステムと呼びます。各種ソフトウェア（アプリ）はこのデータベースシステム内に保存されたデータを利用する形で実行されます。即ち、クラウドを構成する基本的な構造を持つシステムであり、クラウド時代のデータベースシステムと言えます。その中でも弊社が特許を取得したWEBデータベースシステムはブラウザで自由に「**データ項目の管理**」ができることに特徴があります。

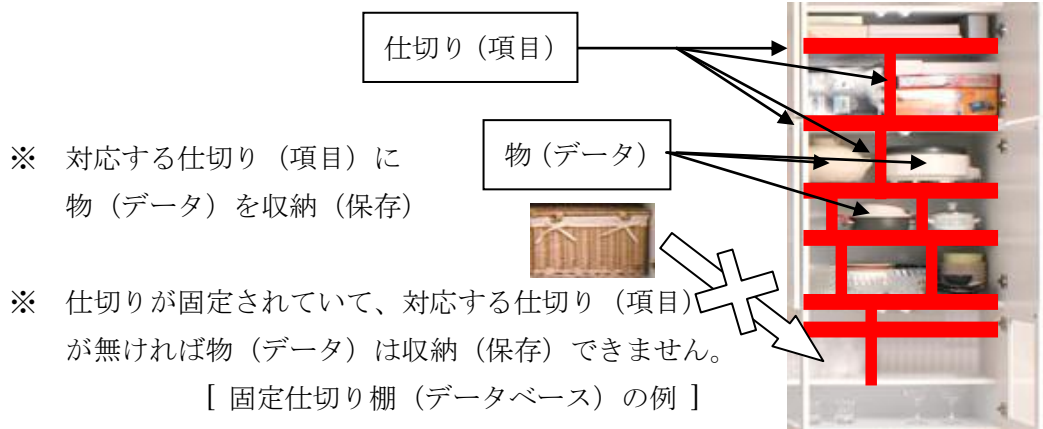


WEBデータベースシステムの構成

※ クラウドは云わばサーバの運用形態を指す言葉であり、WEBデータベースシステムの構成と差異はありません。クラウドという言葉が出現する前は、このような構成のシステムをASP (Application Service Provider) サービスと表現していましたが、現在のクラウドという言葉の出現と共にSaaS (Software as a Service) という表現に置き換わって呼ばれています。近年、WEBデータベースシステムはあらゆるデータベース関連ソフトウェアに適用されてきており、サーバ装置の運用形態を意識しないユーザから見れば、「SaaS」≒ (ほぼ同じ)「WEBデータベースシステム」となりつつあります。

3. [データ項目の管理とは]

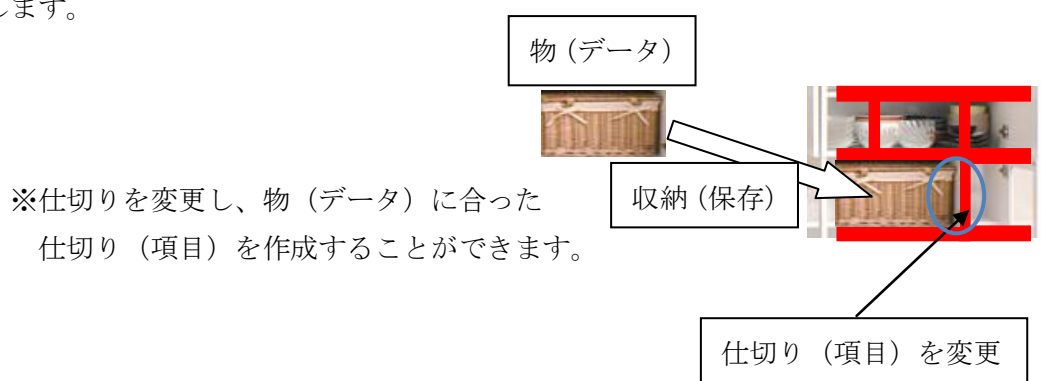
データベースにデータを蓄積するためには、データは項目で管理する必要があります。例えばユーザがスケジュール帳アプリを使用していたとすれば、クラウド内のデータベースには年月日の項目とスケジュールタイトルの項目、詳細内容の項目、実行したかどうかをチェックするための項目等がデータ登録に必要でしょう。住所録アプリだったらデータ登録のための項目は氏名や連絡先電話番号、住所等になります。このようにデータは使用するアプリ (ソフトウェア) によって様々な項目に分類されてデータベースに記憶されています。「項目管理」とは、物 (データ) を棚 (データベース) にしまう時、物の大きさや高さに応じてあらかじめ棚を仕切り (項目) で区切っておくと言った感じでしょうか。



現在のクラウドではデータ項目はあらかじめクラウドサービスの提供者側が、それぞれのアプリに応じて必要なデータ項目を作成した上でクラウドサービスの提供を行っています。つまり、開発者やユーザは収納する物に応じて棚の区切りは固定された状態で棚の提供を受けているのです。アプリの開発者はクラウドを利用するにあたり、限られたデータ項目の中で開発を行わなければなりません。

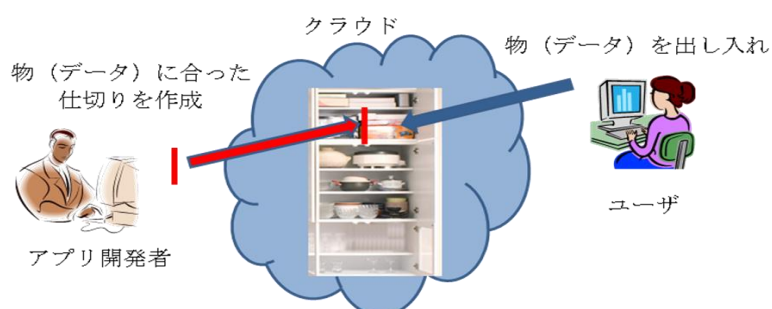
4. [弊社の特許技術の特徴]

弊社が取得した特許の特徴は、このようなクラウド（データベース）内のデータ項目をクラウドサービスの提供者（クラウドシステムを管理している内部の人間）ではなく外部の第三者（例えばアプリ開発者）又はユーザから、非常に容易に管理操作できる仕組みを提供するものなのです。つまり、第三者やユーザがネットワーク越しに、自由にクラウド（データベース）内のデータ項目を作成、変更、削除できるのです。いわば、収納する物に関係なくユーザが自由に棚の区切りを変更できる棚の提供が可能になると言う事を意味します。



これは、一体何を意味するのでしょうか？

現在では、アプリの開発者が必要とするデータ項目をクラウドサービスの提供者が用意しなければならないという連携が必要であるのに対し、この特許技術をクラウドサービス提供者のクラウド（データベース）に適用することで、アプリの開発者又はユーザがそのアプリに必要なデータ項目を、自ら自分の手でクラウド内に作成する事が可能になるのです。つまり、アプリの開発者やユーザが「**制限無く自由にクラウドを利用・活用できるようになる**」のです。



[特許技術を適用したクラウドを利用したアプリ開発]

このことで、「クラウドを活用したアプリの開発が、今後飛躍的に成長を遂げることになる」のに疑いの余地はありません。

5. [弊社の特許は、現在どの分野で注目されているのか]

WEBデータベースの分野では、既にこの特許技術を使ったアプリ（アプリケーション）開発が行われてきており、その中でもイントラネットシステム（企業内ネットワークアプリケーション）の分野では確固たる地位を築きつつあります。（もう販売管理等のパッケージソフトを買ってきて各PCにインストールして運用する時代ではありません。）

例えば、販売管理、顧客管理、スケジュール管理、工程管理、在庫管理等に代表されるあらゆるデータベース関連アプリケーション開発に適用されます。

セキュリティの観点から、通常の閉じた社内ネットワークシステムとしても構築することができますが、インターネット上のクラウド環境に容易に適合させることができるのも一つの魅力です。

また、事業内容は時代と共に変遷して行き、それと共にデータの管理項目も変わっていきます。そのような場合にデータ項目の追加・変更・削除によって容易に対応していけるのが弊社の特許技術を用いたシステム開発です。

特に、イントラネットシステムでは複数の事業所をもつ大手の企業にとって、データやアプリケーションをサーバ上で一元管理できるので、そのメリットは最大の効果を発揮します。

とは言っても、「このようなシステムは大企業向けだから」という訳ではありません。クラウドを有効に利用し、このようなアプリケーションの開発と提供を行うことによって、中小企業やスマートフォンに代表される個人向けのアプリケーションの分野でも、効率的な開発とユーザへの安価なサービス提供を実現していく事が可能になります。

6. [技術適用例の紹介]

以下に、同様の技術を利用した開発を行っており、この分野ではトップ企業であるサイボウズ社の事業内容を紹介させて戴きます。この事業分野の可能性を理解して戴ければ幸いです。 URL：<http://products.cybozu.co.jp/dezie/>

コピーライトの関係上、この紙面に転載することができませんのでご了承願います。

◆導入実績は5000社を超えます。

◆導入事例は以下です。

- ・お問い合わせ / クレーム管理（ドミノ・ピザジャパン、セガ、紀文本店他）
- ・顧客管理 / 案件管理
- ・業務依頼（ワークフロー） / プロジェクト管理（三洋セールス&マーケティング他）
- ・売上 / 予算管理（元気寿司他）
- ・業務日報

- ・ 労務・工数管理（リンガーハット他）
- ・ 社内アンケート / 社員アカウント管理（楽天他）
- ・ 商品管理（ヤマトインターナショナル、カメラのきたむら他）

以上